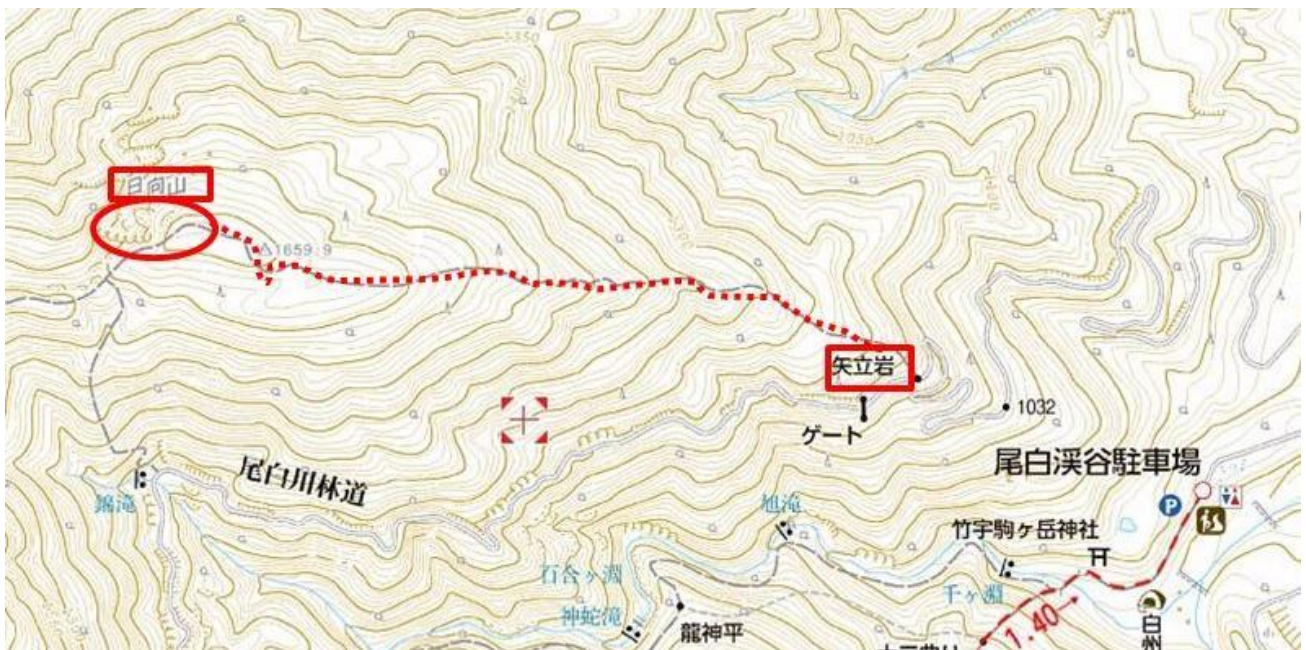


特別給付金を使って山梨・日向山に登って来た

M

先週金曜日、やっと県外へも出かけられるようになった。そこで、早速、日曜日（6月21日）、山梨・日向山へハイキングに出かけた。ここは、サントリーやシャトレーズがある白州の奥にある山で、1660mと標高はそんなに高くないが花崗岩が風化して、山頂が砂浜状になっており、風化残りの岩が林立し、異様な風景を呈するらしい。また眺望が南アルプス駒ヶ岳やハケ岳を望むことができ素晴らしいと評判の山だ。

いつも行くハケ岳高原のホテルから、魅力的な割引招待券が送られてきていたのでそれも利用することにした。この梅雨の時期に、天気だけが心配だったけど、奇跡的に予定の日曜日と月曜日は晴れときどき曇りの予報。朝早く起き、中央高速須玉インターで降りる。県外移動が解禁されたばかりで車も少なく快適なドライブ。そして、登山口の矢立石駐車場に9時半ごろつく。



もともと駐車場のキャパシティが小さいせいもあるが、満車、しかし少し手前の道路脇に1台停められるスペースがあり、すべり込セーフ。もしここに止められなければ、麓の駐車場まで戻りそこから、1時間かけて登ってこなければ行けなかった。やれやれ助かった。

実は6月初めに、秩父琴平丘陵にハイキングに出かけた。この時は、ほとんど人と会わず、帰りの電車（影の森から、西武秩父経由横瀬まで）にもほとんどハイカーはいなかった。しかし、移動可のお墨付きを得た後のすぐの日曜日のせいなのか、結構な数のハイカーとすれ違う、久しぶりの「こんにちわー」をする。しかし問題は、マスク、これをして歩くと、

すごく疲れる。対面者のいないところではマスクを外す。ようは気遣いの問題だ、相手がいなければ、マスクをする必要はない。登山道わきに、ギンリョウソウがよきっと突き出している。これは、自身は葉緑素を持たない寄生植物だ。山頂が近づくにつれて、

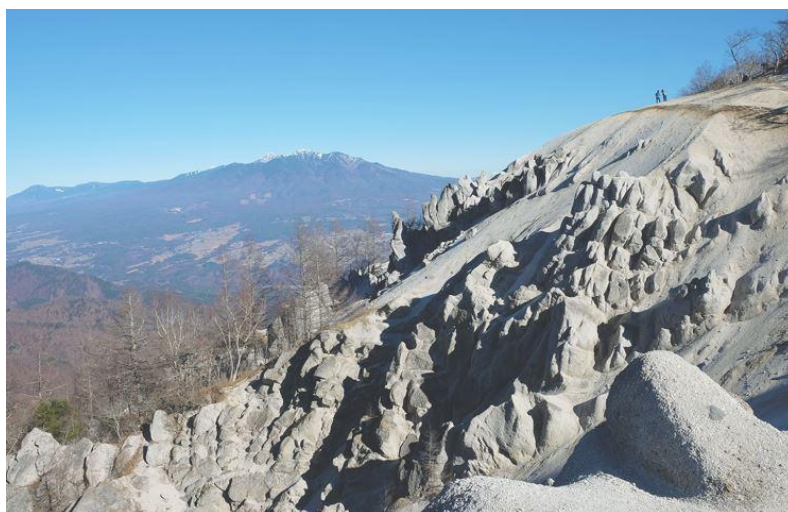


ギンリョウソウ

だんだんガスっぽくなる。え！予報と違うよ！でもまあ仕方がない。途中ですれ違う人に、頂上はどうでしたと聞くも、甲斐駒ヶ岳を撮りに来て待ったけど晴れそうもないから帰って来たという。でもまあ、行くしかない。それで頂上について見れば、こんな状況。



本来ならこんな↓景色が見れるらしい。でも、山頂の「砂浜」をザクザク歩く経験をした、不思議な感覚。ただし怖い、するすると滑って落ちはしないかと少し心配になる。



本来ならこんな景色 (from https://www.hokuto-kanko.jp/sp/mt_hinata)

ここで、昼食を取り、下山することに 14:00 頃登山口にもどる。登り、2 時間弱、下り 1 時間半。コースタイムより少しかかった程度で済む。しかし、下りてきたころ晴れる！まあこんなものだ。

この後、麓の、道の駅「はくしゅう」、その後「清春芸術村」へ寄る。

<http://www.kiyoharu-art.com/>

白樺派の面々が好んだルオーの絵やゴッホのスケッチ、また安藤忠雄設計の小さな絵画館、藤森照信設計のツリーハウスなどが点在するゆったりした敷地を堪能する。ハケ岳東麓のホテルに 16 時ころ着く。残念ながら温泉ではないが「バスタブ」につかり疲れをいやしていただき食事。国指定の登録有形文化財に指定された、尾張徳川公の別邸を移設したヒュッテで摂る。限定 12 名。内容にも満足する。

ハケ岳ヒュッテ



<https://www.yatsugatake.co.jp/stay/information/hut.html>



ホテル内部

次の日は、天気予想に反して雨。それで、去年同窓会で行った津金学校に行く。明治の学校を見学し、実験道具を懐かしむ。今回も給食を食べようと提案するも同行者に却下される。客は我々以外にいない。コロナのせいなのか、もともと人気がないのか・・・。その後帰路につく。

とにかく、自粛が解けて、すぐに旅行に出かけ、あちこちで、歓迎され（たぶん）、好待遇を受けた。コロナ禍から回復しようと、皆がんばっている。我々にできることは、消費する事しかない。せっかく政府から貰った特別給付金、なるべく速やかに使って景気回復に少しでも寄与したい。今回ささやかに消費に回すことができたが、まだかなり残っている、来月にでもまた旅行に行こうかと思っている。